

JEMAI環境ラベルプログラム
(カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム)

登録レビューア・内部検証員の力量に
関する要求事項

制定：平成25年9月25日

文書管理番号：CC-16-02

一般社団法人産業環境管理協会

本文書は、一般社団法人産業環境管理協会（以下、「協会」という。）が運営管理する「カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム」（以下、「CFP プログラム」という。）における、登録レビューア・内部検証員に対する要求事項である。本文書中の要求事項は、CFP プログラムの取組を通じて、適時かつ適切に見直されるものである。

本文書の用語の定義は基本文書の附属文書－1によるが、その他登録レビューア・内部検証員の登録・評価規程（CR-11）及び登録レビューア・内部検証員の登録・評価手順（CC-18）に定めるものに従う。

1. 対象

- (ア) 登録レビューア
- (イ) 内部検証員

また、(ア)は以下に分類される。

登録レビューア	CFP 検証員	CFP 主任検証員	CFP 検証を実施する力量があると協会が認めた者。
		CFP 検証員補	協会が認めた CFP 主任検証員の指揮指導のもとに検証を行うことができる。
	CFP-PCR レビューア	主任 CFP-PCR レビューア	CFP-PCR レビューを実施する力量があると協会が認めた者。
		CFP-PCR レビューア補	協会が認めた主任 CFP-PCR レビューアの指揮指導のもとに CFP-PCR レビューを行うことができる。

2. 資格基準

登録レビューアおよび内部検証員は、次の a)～f)に示す条件をすべて満たすこと。ただし、内部検証員については b)は推奨事項とする。

なお、f)の適用については表下部を参照のこと。

登録レビューアおよび内部検証員の資格基準

	内容	登録レビューア	内部検証員
a)	学校教育法に定める高等学校卒業以上の学歴を有すること。また、次の者は相当以上の学歴を有する者とする。 ① 高等専門学校卒業者、文部科学大臣の指定を受けた3年制以上の高等課程専修学校修了者、文部科学省令に基づく高等学校卒業程度認定試験合格者、海外の中等教育以上の修了者 ② 高等学校以上に相当する組織内教育施設の修了者	必須	必須
b)	業務経験を5年以上有すること。	必須	推奨

c)	最低でも 1 件以上の LCA に関連する算定実務経験もしくは LCA に関連する検証経験を有すること。	必須	必須
d)	業務上の関係が 1 年以上ある所属組織の責任者等から、4 項に示す個人的特質を有する者として推薦されること。	必須	必須
e)	協会が主催する検証員向けの研修会を合格修了していること。(研修については付属書 B を参照のこと。)	必須	必須
f)	協会が実施する要員向けの試験に合格していること。(試験については付属書 A を参照のこと。ただし、日本 LCA 学会と協会が共催で実施している LCA エキスパート検定試験に合格していることで代えることができる。)	必須	必須
g)	e)および f) の両方を満たした時点から 1 年以内であること。	必須	必須

なお、エコリーフ検証員の資格を有する者は f) を満たしているとみなす。

3. 登録

3.1 資格

3.2 項を満たすことにより、登録レビューアまたは内部検証員として登録することができる。登録レビューアおよび内部検証員は 1 年ごとに資格登録の維持手続きを行い、3 年ごとに資格登録の更新手続きを行わなければならない。

3.2 資格の更新

登録レビューアおよび内部検証員は、3 年ごとに更新手続きを行う際、以下の内容の記録を報告しなければならない。なお、b)～d)については、いずれか 1 つ以上の実施が必要である。

- a) 事業者から異議申立て又は苦情を受けた場合は、その内容（登録レビューアの場合）
- b) 3 件以上の検証実績
- c) 協会や、その協力団体等が主催する登録レビューアおよび内部検証員向けの研修等への参加
- d) 以下に示す「専門能力の継続的開発 (Continuing Professional Development、以下「CPD」という。)」の実績を 15CPD 時間分行ったこと

① 専門能力の対象分野

LCA/CFP の知識及び技能に関する分野を対象とする。

② 対象とする専門能力の開発方法、CPD 時間算出方法

上記の対象分野に該当する以下の方法で実際に行った活動の 1 時間を 1CPD 時間とする。

能力開発方法	内容及び条件	CPD 時間
①個人学習	書籍あるいは文献の読解、有志でのグループ学習(研修参加でのグループ討議は②受動的な活動)。 *インターネットによる情報検索、文献学習は認められません。 *雑誌購読は認められません。ただし、特集等の特定記事を取上げての学習は認められます。	学習時間

	*資料作成、考えのまとめ、検討等の作業は対象としない。	
②受動的な活動	講演会、社内外研修会への参加(研修参加におけるグループ討議、発表を含む。) *環境展示会見学、エコツアー、個人又は有志での視察等は認められません。ただし、主催者の明確な環境視察の会社訪問は認められます。 *講演会や研修の「事前・事後」の個人学習は CPD 時間には計上できません。	参加時間 (注) 休憩時間を除く
③CFP 事務局実施の活動	協会が実施する LCA、環境ラベルまたは CFP に関するセミナー、情報交換会への参加、討議。	5CPD 時間 /回
④主体的な活動	社内外講演会・研修会等での講義(研修参加でのグループ討議の発表は②受動的活動)。 *1年間同一内容を複数回行った講義等の場合、初回分のみとします。 *講演会・研修会の発表資料の作成は CPD 時間としてカウントしない。	講義時間
	論文・学術図書の執筆。 *校正時間は除く。	執筆時間
⑤プロジェクト活動	一過性の研究・開発プロジェクトとしての活動、大学・学術団体での研修における技術指導及びボランティア活動等。 *定常業務としての社内外の活動及び技術指導は認められません。	参加時間

4. 資格の停止及び取消し

協会は、CFP-PCR レビューおよび検証業務の遂行において適切さに欠けたり、CFP プログラムの倫理・機密事項取扱規程に反した登録レビューアおよび内部検証員については、登録を停止又は取消することができる。また、協会は、登録レビューアおよび内部検証員が不正にその資格を取得したことが判明した時は、その登録を停止又は取消することができる。

附則

本文書は平成 25 年 10 月 1 日から施行する。

訂番	年月日	頁	内容
01	平成25年9月25日	-	制定 エコリーフとの一体運営化の見直しに基づき、旧登録レビューアの力量に関する要求事項（C-15-02）を改訂の上、新規文書管理番号（CC-15-01）で制定。 対象を登録レビューアのみから登録レビューア・内部検証員へ変更。
02	平成27年9月18日	2	要員向け試験・LCAエキスパート検定試験の位置づけを変更、エコリーフ検証員の資格を有する場合の資格基準について追記。

付属書 A: 試験について

(LCA 試験概要)

LCA 手法を実行できる能力を有しているか否かを確認することを目的とし、LCA の基本概念、手法の枠組、基本規則・手順等の基本的知識の確認に止まらず、LCI データの作成、修正、算出等の実務に対応可能な実際的な計算能力を測る内容とする。

LCA 試験の問題形式、一回当たりの出題数、問題の構成および試験時間は、以下のとおりとする。

- ① 問題形式 : 計算問題を含む記述式筆記試験とする。
- ② 問題数・構成 : 1 回当たり記述式問題 10 問および計算問題 2 問の計 12 問の出題とし、出題する問題の構成は表の「出題数」の欄に示すとおりとする。
- ③ 試験時間 : 120 分とし、終了した者については試験開始 60 分後から退席可能とする。

(試験当日の要領)

試験実施当日の要領は次のとおりとする。

- ① 解答は問題用紙上に記入し、解答された問題用紙を受験者全員から回収する。また、受験者に問題の持ち帰りを認めないこととする。
- ② 受験者には、受験に当たって参考書 2 冊までの持込を認めることとする。
- ③ 受験者は必要な電卓・筆記具等を持参することとする。

LCA 試験問題作成基準

No.	科目	出題の内容	出題数
1	LCA の概要と意義(記述式)	1) LCA の基本概念に係わる事項 ・ 概念、用途/有効性、限界/注意点 2) ISO14040 規格シリーズに係わる事項 ・ 主要用語、規格の構成	2 問
2	LCA の手法(記述式)	1) 「LCA 調査の目的と範囲の設定」に係わる事項 2) 「LCI 分析」に係わる事項 3) 「LCIA」に係わる事項 4) 「ライフサイクル解釈」に係わる事項 5) 「クリティカルレビュー」に係わる事項	6 問
3	LCA の応用(記述式)	1) 環境ラベルへの応用に係わる事項	2 問
4	計算問題	1) LCI 計算 : ・アロケーション重点の計算問題 (重量基準/価額基準など) ・データ加工計算問題 2) LCIA 計算 : 特性化係数計算問題	2 問
	合計		12 問

付属書 B: 研修について

(研修の概要)

研修は、CFPプログラムの制度の詳細、CFP算定および宣言に関わる要求事項の詳細、検証の方法および手続並びに検証員が遵守すべき事項に関する知識と実行能力を検証員候補者に指導・教授することを目的として行うものとする。

検証員研修の形態、1研修当たりの受講者の定員、研修時間、研修の時間割および講師の数は、以下のとおりとする。

- ① 研修形態 : 座学と演習の組合せとする。
- ② 受講者の定員 : 1研修当たり 3名以上 18名以下とする。

(研修結果の評価)

- 研修の受講者は、次の条件を満たした場合にのみ修了となる。
 - ① 全研修時間の 90%以上を出席すること。
 - ② 演習におけるパフォーマンスが要員として適格なものと評価されること。
- 研修の講師は、修了の判定のため所定のチェックシートを使用して、受講者 1人 1人の演習におけるパフォーマンスを評価するものとする。
- 事務局は、検証員として適格とされた受講者には当該研修修了の旨を、不適格とされた受講者には不適格の理由および次回研修に関する情報を記した研修結果通知書を送付する。

付属書 C

1. 一般要求事項

CFP-PCR および CFP 宣言に対する信用と信頼は、登録レビューアおよび内部検証員の力量に依存する。登録レビューアおよび内部検証員には、2.～5.項に記載される力量に関する要件が求められる。

2. 知識および技能

登録レビューアおよび内部検証員は以下に示す領域の知識及び技能を有さなければならない。

a) LCA/CFP の知識

- ・ CFP のルールに関する知識
 - －基本文書や CFP-PCR、各種規程等の知識
- ・ LCA 及び LCA の作業方法に関する専門知識（LCA 全般の知識）
 - －配分方法など
- ・ GHG 排出量の算定方法に関する知識
 - －GHG 排出源に関する知識
 - －サイトや輸送に関する GHG 排出量の算定方法の知識
- ・ 環境ラベルに関する知識
 - －ISO14025 や ISO14020 に関する知識など

b) CFP 検証行為の技能

- ・ CFP 検証判断基準および CFP 検証手順に沿った検証が実施できる能力
- ・ コミュニケーション能力
- ・ 報告書の作成・報告能力
- ・ レビュー時に指摘された事項に適切に対応する能力
- ・ エキスパートジャッジを行える能力

3. 教育および業務経験

3.1 登録レビューアおよび内部検証員

登録レビューアおよび内部検証員は、次の教育および業務経験を備えていることが望ましい。

- d) 2.に示す知識および技能を身に付けるのに十分な教育を修了していること。
- e) 2.に示す知識および技能の開発に寄与する業務経験があること。この業務経験は、判断、問題解決、並びに他の管理者または専門家、同僚、顧客かつ・またはその他の利害関係者との意思疎通を含む、技術的、管理的または専門的立場での経験であることが望ましい。
- f) 2.に示す知識および技能の開発に寄与する訓練を終了していること。

3.2 CFP-PCR レビューア

なお、CFP-PCR レビューアは、CFP プログラムにおける CFP 検証員としての実務経験を有していなければならない。CFP-PCR レビューアには、CFP 検証員よりも高いレベルが求められ、

CFP-PCR レビューに関する研修を修了している必要がある。

4. 個人的特質

登録レビューアおよび内部検証員は次のようであることが望ましい。

- a) 倫理的である。すなわち、公正である、信用できる、誠実である、正直である、そして分別がある。
- b) 心が広い。すなわち、別の考え方又は視点を進んで考慮する。
- c) 外交的である。すなわち、目的を達成するように人と上手に接する。
- d) 協力的である。すなわち、他人と効果的なやり取りをする。
- e) 観察力がある。すなわち、物理的な周囲の状況及び活動を積極的に意識する。
- f) 知覚が鋭い。すなわち、状況を直観的に認識し、理解できる。
- g) 対応性がある。すなわち、異なる状況に容易に合わせる。
- h) 粘り強い。すなわち、根気があり、目的の達成に集中する。
- i) 決断力がある。すなわち、論理的な理由付け及び分析に基づいて、時宜を得た結論に到達する。
- j) 自立的である。すなわち、独立して行動し、役割を果たす。
- k) 職業人である。すなわち、仕事場において礼儀正しく、誠実で、総じて職務に適応した態度を示している。
- l) 精神的に強い。すなわち、行動が、ときには受け入れられず、意見の相違又は対立を招くことがあっても、進んで責任をもち、倫理的に行動する。
- m) 計画的である。すなわち、効果的な時間管理、優先順位付け、計画策定及び効率性を示す。

5. 力量の維持および向上

5.1 能力の維持

登録レビューアおよび内部検証員は、CFP-PCR レビューおよび CFP 検証業務に定期的に参加することによって、審査能力を維持し、実証することが望ましい。

5.2 専門能力の継続的開発

専門能力の継続的開発は、知識、技能および個人的特質の維持および向上に関係する。これは、追加の業務経験、訓練、個人学習、指導、会合、セミナーおよび会議への参加、またはその他関連する諸活動といった、いろいろな手段で達成できる。登録レビューアおよび内部検証員は専門能力の継続的開発を実証することが望ましい。